

理事長コメント（参加型システム研究所・理事会で）

2008年2月

- ・世界のリーダーが一堂に会するダボス会議（世界経済フォーラム）の今年の暗黙の共通認識は、「米国の一極支配は終わったが、多極化世界はまだできていない。現状は無極状態だ」ということのようなのだ。そこで新しい世界秩序づくりが大きな課題になってきたが、早くも英、仏、独など欧州勢が積極的な動きを見せている。ブラウン首相、サルコジ大統領が相次いでインドを訪問し、中、印を次の世界秩序の支柱に位置づけるよう世界にアピールしている。
- ・また、EUはCO₂削減で大胆な政策をすすめる独（2020年までにCO₂を20%削減、自然エネルギーの比重を現在の5%から20%にするなど）を推進力に、地球環境問題で世界の主導権をとり、EU主導のグローバルスタンダードを作ろうとしている。
- ・中国製ヨーザ問題は日中関係も絡んでいるので、早急な解明と解決を望むが、これを機に日本の食糧問題の議論を深めるべきだ。自給率39%は異常に低い（米、仏は120～130、英、独、伊も70～80%）。安全保障上も自給率を最低50%ぐらいに引き上げるべきだ。エネルギー自給率をもっと低い。一部に日本を戦争ができる国にしようとする動きがあるが、日本は平和な環境でしか生きられない国であることを知るべきだ。